

## 広報資料

資料提供
平成21年9月2日(水)
長浜市長浜城歴史博物館
担当：森岡・太田
電話(直通)63-4611

### 企画展「石田三成と西軍の関ヶ原合戦」 テーマ3 石田三成と大谷吉継 の開催について

長浜城歴史博物館(館長 中島誠一)では、次のとおり企画展「石田三成と西軍の関ヶ原合戦 テーマ3 石田三成と大谷吉継」を開催します。市民の皆様にご周知、よろしく申し上げます。

#### 記

1. 期 日 : 平成21年9月7日(月)～  
平成21年10月4日(日)
2. 開館時間 : 午前9:00～午後5:00(入館は午後4:30まで)
3. 場 所 : 長浜城歴史博物館3階展示室
4. 入館料 : 個人 大人(高校生以上) 400円  
小・中学生 200円  
団体 大人(高校生以上) 320円  
小・中学生 160円  
団体は20名以上です
5. 展示資料 : 別紙のとおり

なお、本展示にあわせ、9月19日(土)午後1:30から長浜城歴史博物館において展示説明会を行います。本館学芸員が展示資料の解説を行いますので、ぜひご来館下さい。

## 長浜城歴史博物館 平成 21 年度企画展

### 石田三成と西軍の関ヶ原合戦

#### テーマ 3 石田三成と大谷吉継

#### 【主旨】

石田三成と共に戦った西軍武將にスポットをあてる企画展示の第 3 回目は、三成の盟友であった大谷吉継を取り上げます。

大谷吉継（1559～1600）は、永禄 2 年（1559）に生まれました。父は、大谷吉房と伝え、一説に近江国伊香郡大谷村（余呉町小谷）出身といわれます。最初は紀之介といい、後に吉継（吉次）と改めました。秀吉の小姓として仕え、賤ヶ岳合戦では七本槍につぐ戦功をあげています。

天正 13 年（1585）7 月、秀吉の関白就任の折には、従 5 位下刑部少輔に任じられました。九州征討には三成らと兵站奉行をつとめました。天正 17 年（1589）越前敦賀城主となり、5 万石を宛行われました。翌 18 年の小田原攻めに出陣し、それに続く奥羽経略にも参陣して石田三成・浅野長政等と共に戦功をあげています。平定後には、出羽地方の検地を実施しています。また同年 11 月には美濃国の検地も担当しています。文禄元年（1592）の朝鮮出兵に際しては、三成と共に船奉行を命じられ、船舶の調達にあたりました。さらに同年 6 月三成や増田長盛と共に在朝鮮部隊の督励奉行として渡海し、翌年明軍との和平交渉にも努めています。文禄 3 年春には伏見城の普請（土木工事）を分担しています。翌年 1 万石を加増されています。慶長 3 年（1598）秀吉没後は、遺物の「采国行」の太刀を受領しています。

吉継は、三成・増田長盛等と共に豊臣政権における更僚派大名の一人です。慶長 5 年（1600）7 月家康の会津攻撃軍に合流するため、軍を率いて敦賀を出陣し、美濃国垂井に至った時に佐和山城の石田三成に誘われました。三成は「打倒家康」の大望を打ち明け、協力を要請したのです。吉継は、計画を思い止まるように再三説得しましたが、三成の意志が固いことを知り、意を決して行動を共にすることにしました。吉継は、敦賀に引き返して挙兵し、北国口の防衛にあたり前田利長軍を破ります。家康西上の報に接するや、関ヶ原に出陣し、9 月 15 日の決戦には藤川に布陣します。一旦は藤堂高虎・京極高知軍の攻撃を却けますが、小早川秀秋の裏切りによって、側背を衝かれて苦戦します。そのなかでよく奮戦しましたが、ついに戦場で自刃します。享年 42。病軀をおして輿で出陣し、白い頭巾を被っていたと伝えています。

今回の展覧会では、この大谷吉継の肖像画や書状を展示します。

## 【展示資料一覧】

1.大谷吉継像 前田幹雄画	現代	1幅	個人蔵
2.大谷吉継書状 称名寺宛	天正11年(1583)	1通	称名寺蔵
3.大谷吉継禁制 西福寺宛	天正17年(1589)	1幅	西福寺蔵(福井県指定文化財)
4.大谷吉継書状 西福寺宛	慶長3年(1598)	1通	西福寺蔵(福井県指定文化財)
5.関ヶ原合戦陣立図	江戸時代(後期)	1舗	本館蔵

など

## 【主な展示資料】

### 1.絹本着色 大谷吉継像

この肖像画は、大谷吉継の供養と顕彰<sup>けんしょう</sup>のために、寝屋川市在住の日本画家・前田幹雄画伯が昭和59年(1984)に描いたもの。大谷吉継は、関ヶ原合戦場で自刃し、その長男・吉治も放浪後の慶長19年(1614)豊臣家の招きに応じて大坂城に入り、大坂夏の陣で天王寺にて討ち死にしてしまった。このため、吉継の確実な肖像画は現在のところ確認されていない。吉継は常に頭巾を被っていたと伝え、本像も白い頭巾を着用する。また背後には、関ヶ原合戦場で軍勢を指揮するために乗っていた「輿」が描かれている。

【昭和59年(1984) 縦98.0cm×横50.0cm】

### 2.大谷吉継書状

御西堂・称名寺人々御中宛

称名寺の寺領について、従来通り安堵<sup>あんど</sup>されたことを伝えたもの。天正11年3月佐和山城主になった堀秀政が没収しようとしたので、称名寺が秀吉に直訴<sup>じきそ</sup>し、寺領安堵の命令を得た経緯がある。使者の木下半介は、称名寺5世「性慶<sup>せいきょう</sup>」の叔父と伝えている。吉継と名の前の文書で、「紀之介」の署名のある文書はかなり珍しい。

【天正11年(1583) 縦29.5cm 横47.1cm】

### 3.大谷吉継禁制 西福寺宛

天正17年(1589)9月25日敦賀城主蜂屋頼隆<sup>はちかよりたか</sup>が病死した。秀吉はその跡を大谷吉継に命じ、5万7000石を知行させた。吉継が敦賀城へ赴任した月日は不明である。しかしこの西福寺の禁制が、敦賀で最初に出された禁制であるため、この直前の可能性があるだろう。西福寺は、浄土宗で、応安元年(1368)の創建と伝え、法然上人自作と伝える本尊円光大師坐像<sup>まつ</sup>を祀っている。

【天正17年(1589)】